

日中経済交流研究会新聞

インタビュー vol.31

食べるだけでごきげんさん、健康で幸せになるパンを世界中の人に

株式会社リバーフィールド 代表取締役 山岡 和美 氏



山岡さんが経営する株式会社リバーフィールドは、ホテルやレストラン、そして無添加・高品質にこだわるスーパーなどにパンを製造し卸している工場です。メインのお客様であるホテル・レストランが3月から日本全土を襲ったコロナショックで、注文がほとんどなくなりリバーフィールドに存続の危機が訪れました。そんな山岡さんの緊急事態宣言の最中での奮闘ぶりを取材しました。

まずは資金調達

外国人旅行者が来なくなるかも?1月末、これは大変なことになるかもしれない予感がありました。2月に入りホテル様からの注文が日々目に見えて落ちていき、緊急事態宣言のころにはほぼゼロに。「従業員を休ませて雇用調整助成金の申請を」と、何人もの方からアドバイスをいただきましたが、工場稼働は止めない、従業員さんも解雇しないと決めていたので、とにかく資金調達が最優先と思い、まだ給付金や無利子貸し付けの話などまったく決定されていない時期でしたが、幸いにも3月中旬には融資の承諾を得てひとまずはほっとしました。でも、次に何をどうすればよいか?世界中のホテルや旅館に宿泊客がない、レストランにも誰も行かないという状況で、何ができるんだろう?どうなるんだろうと、考えるとぞっとしました。

小さな奇跡が起こっていた

弊社は売り上げのほとんどが卸販売ですから、お客様の喜ぶ顔を直接見ることができる環境を作りたいと思っていました。以前に「Rire」(リール:仏語で「笑顔」という意味)という小売りのパンのアンテナショップを経営していたことがあります。そのお店のコンセプトで数年前からネットショップを始めていました。しかし弊社にITに強い人材がおらず、うまくいっていませんでした。ところが、幸いにもコロナショックの直前に、製造で働いていた人に経験があるということがわかり、ショップページを改善し始めていたところだったのです。

3月から早速対策会議を開き、どんどんページを充実させていきました。私自身、PRすることが苦手だったのですが、今回ばかりは周りの方々のお力をお借りしてPRをするようにしました。すると、少しずつみなさんに買っていただけるようになってきたのです。すると、また新しいアイデアが湧いてきます。

テレワークや会社で頑張っている社員さん、離れて暮らす家族や知人に送るための「Stay Home, Be Happy (今、大切な

人に贈る)」セットが生まれたり、医療従事者の方々に送る「ほっこりにんまりプロジェクト」が生まれたり、新しい商品というか心のこもったサービスが生まれてきました。パンだけを販売するのではなく、気持ちを伝えて贈るというか…。

新たな挑戦

2年ほど前から不定期に開催していた「ごきげんSun-Dayマルシェ」を新型コロナウイルス対策の一つとして4月末から毎週開催しようと決めて準備をすすめていたところ、地元のネットニュースに取り上げられ、地域の住民の方々がたくさん工場へパンを買いに来てくださるようになりました。これまで、ぼつぼつとしか来なかったお客様が、今は雨の日でも朝7時半から並んでくださり、パンが売り切れるようになりました。お客様の笑顔を直接見れる環境づくりをしたいという思いがマルシェで実現できたのです。

工場で引き取れる「焼きたて引き取りルール」というサービスも始めました。緊急事態宣言があけた今、さらに新しいことが頭の中に浮かんできています。これらだけでは売り上げの減少のすべてをカバーすることはできませんが、地域の方々とのつながりが広がり、日々感謝する毎日を迎えることができている今、私たちの新しい未来の地図も少しずつ描けている気がしています。

今後は

今回のコロナショックのおかげで、意外な人が活躍してくれたり、パートの方々がすごく頑張ってくれたり、もっと時間がかかっただろうなと思うようなことが短期間の間に進んでいる気がしています。そしてたくさんの人に助けていただいています。さまざまな人との出会い、そしてこの試練に感謝し、私自身も成長できればと思っています。

(記事・インタビュー 日中経済交流研究会 広報委員会)

山岡さんは、7月22日(水)の女性部の例会で報告をされます。さらに詳しいお話を聞きたい方は、ぜひ7月の女性部例会へ!